

Diagnostic and Prognostic Impact of Crypt Branching in Patients With Ulcerative Colitis: A Validation Study

Lang-Schwarz C, Rubio CA, Vieth M. *Anticancer Res.* 2022 Jan;42(1):147-154. IF 1.713 (2022)

【要旨】

背景および目的：潰瘍性大腸炎 (Ulcerative colitis UC) 患者における陰窩分枝 (陰窩分裂とも呼ばれる) の評価者間の一致を検証し、診断および予後への影響を検討することを目的とした。

対象と方法： UC 患者から採取した合計 100 例の生検検体を対象とし、各 50 人の患者からなる 2 対照コホートをを用いた (感染性対 UC、低悪性度上皮内新生物 (LGIN) 対 UC)。3 人の病理医が、分裂している陰窩の総数、対称性分裂 (crypts in symmetric fusion; CSF) および非対称性分裂 (crypts in asymmetric fusion; CAF) の陰窩の数を集計した。

結 果：本研究コホートにおいて評価者間の一致は良好であった。陰窩の分裂数は UC の活動性と関連した ($p=0.001$; $p<0.001$)。LGIN 対照コホートでは、CSF が有意に多かった ($p=0.012$)。

結 論： 陰窩分枝 (陰窩分裂) の評価者間一致は、本研究コホートにおいて信頼できた。陰窩分岐は、活動性 UC と感染性大腸炎を鑑別するための追加的な組織学的特徴である。CSF の数が多ければ、新生物のリスクが高い患者の同定に役立つ可能性がある。

Take home message :

1. 潰瘍性大腸炎の陰窩分岐は対照性で 2 種類 (CSF、CAF) に分類される。
2. CAF の過多は感染性腸炎と UC の鑑別の一助になりうる。
3. CSF の過多は LGIN と UC の鑑別の一助になりうる。